



学校評価の結果から「いじめ」について考える！

教頭先生が学校評価を集計してくれました。昨年度に引き続き「いじめなどなく安全」の項目に課題があります。5段階評定の3.8で他の項目と比べて低い。昨年度も同様である。学校生活を楽しく前向きに考える上で児童一人一人の安全は重要である。そのためには、相手を思いやる言葉や行動が重要である。「無視」「悪口」等いわゆる「いじめ」は一人一人の安全を奪い取ってしまう。改善に向けていろんな取り組みや指導を行ってきたが「無視」「悪口」等いわゆる「いじめ」はなかなかなくなる。そうならないために「和顔愛語」を子供たちに事あるごとに伝えているが簡単ではない。「和顔愛語」はもともと仏教用語であるが子供たちには「いい笑顔」「優しい言葉」と伝ええている。「いい笑顔」「優しい言葉」は、人を勇気づけ穏やかな気持ちにしてくれる。児童同士、保護者同士、教師同士、保護者と教師、教師と児童が普段から「和顔愛語」で良いコミュニケーションを取れば、きっと「いじめのない素敵な学校」になると思う。誰もが楽しく前向きに頑張れる学校を教師、保護者、地域、児童の力で作っていきましょう。

正義を声高らかにいう人はもしかして危ない？

正義の味方が悪を懲らしめ社会を正す勸善懲悪の考えに多くの人は共感しますよね。自分も共感します。ただ、国と国との関係や宗教間の争いを見てると、ある人にとっての正義は、他者の正義とは限らないです。社会が大きく複雑になり正義が多様化したために人は、法律を作り個人の正義ではなく、法によって物事を決めるようになりました。自分は、根拠に基づかないで「ああすべきだ」「こうあるべきだ」「しなければいけない」という人には違和感を感じる。ただ自分も無意識にそれをやっている気がする。時には、他者の人権や生命を守るためには、強い言葉を言わないとはいけない時もある。自分の利益（経済的利益、自己満足、欲求の充足）ためには使うまいと努力はしている（つもり）。

この件で前国頭教育事務所長の便りが面白かった。

確か、自分は善人だと思っている人ほど正義を語りそれを押し付け争いを起こす。

逆に自分が悪人だと思っている人は、自分の行為に疑問を抱き客観視するので争うことなく、うまくやっていくそうです。自分が正しい、他人は間違っていると高飛車に出るとつらいことが起こるような気がします。所属する集団の価値観による正義のもとに人を裁いたり、評価するのではなく自分に厳しく、人に優しく、物事に対して冷静に穏やかに「和顔愛語」で生きていきたいですね。そうすれば「きっと上手くいく」と思います。難しいけど（笑い）

※要注意 自分に厳しすぎるのも不幸だと思います。ONOFF大事！楽しみましょう！